

心の原風景
—我が母校—

佐渡市立金泉小学校

金泉小学校は、尖閣湾を望む高台に位置しています。学区の海岸線は、荒削りの断崖と岩礁風景が長く続きますが、岩肌に咲くカンゾウの花が自然の暖かさを感じさせます。

当校は、カンゾウの花に負けない美しい花がたくさん咲いている学校です。

一つは、玄関や校内のあちこちに置かれているプランターに咲いている花です。卒業式・入学式では、子どもたちみんなが育てたサクラソウの花道の中を卒業生・新入生が入退場しました。プランターの花の手入れには、地域の協力があり、子どもたちの活動を支えています。ただ、ただいていただきます。プランターの花や畑での栽培活動を通して、自然を慈しむ心を思いやり



サクラソウの花道



花咲き山の掲示

でいます。

もう一つは、教務室前廊下の掲示板に咲いている「金泉の花咲き山」の花です。斉藤隆介作『花咲き山』の「やさしいことをすると美しい花が一つ咲く」というお話をもとに、「友達の優しさ」「自分のよさ」を見つけたときに花のカードに記入し、掲示しています。

給食時に児童会役員がカードの内容を紹介するなど、「金泉の花咲き山」の活動は、児童主体の取組となっています。

この活動を通して、よいと思ったことを進んで行動に移す実践力、自己肯定感を高めたいと考えています。当校では、これからも子どもたちが美しい花を慈しみ、たくさんの花を心に咲かせていけるよう、教育活動に取り組んでいきます。

◆教育委員会学校教育課(両津支所内)
☎23-4898

ジオパーク、推進日記

④

化石は語る

外海府南部地域では、海のすぐ近くで葉の化石(木ノ葉石)や昆虫化石が産出します。この地域で産出する化石はとても保存状態が良いことが特徴です。なぜこの場所にだけこんなきれいな化石がでるのでしようか?

植物や動物が化石になるためには、様々な条件が必要です。特に葉や昆虫のように、薄くて小さいものが化石として残るためには、静かな環境で砂や泥に閉じ込められる必要があります。たとえば、流れの速い川に葉が落ちます。すると、その葉は下流へと流され、泥の中にたまるまでの間に粉々になってしまします。こうなると、たとえ化石になつたとしても、綺麗な葉っぱの形としては残りません。

では、どのような場所でもなら葉が形を保っていられるのでしょうか。外海府南部地域で産出する化石は、流れが少なく湖のような場

所でできたと考えられています。湖なら葉が水中に落ちて、水の流れによつて壊されることはありません。さらに、泥の中に植物などを分解するバクテリアが少なかったとも考えられます。

化石が見つかるだけで、当時の環境をある程度想像することができます。外海府南部地域の木ノ葉石はやや寒い地域に生息する落葉広葉樹がほとんどです。このことから、約2200万年前の気候は冷温帯性だったということがわかります。

このように、化石ができた当時の環境をよく示している化石のことを「示相化石」と呼びます。木ノ葉石はとも良い「示相化石」であると言えます。

◆教育委員会社会教育課 ジオパーク推進室(両津郷土博物館内) ☎23-2100



昆虫化石



葉の化石